

令和6年度 第8回佐治地域振興会議 議事概要

日時：令和7年2月20日（木）午後6時30分～
場所：佐治町総合支所 2階 大会議室

[出席委員] 9名

小谷繁喜、西尾寛茂、谷上正樹、岸田みち代、阿久津奈穂子、無替幸夫、
田中精夫、中家孝、小林憲二

[欠席委員] 3名

田中早雄、井上茜、下石聡子

[事務局] 5名

下田支所長、下石副支所長兼地域振興課長、飯田産業建設課長、上田市民福祉課長
倉持地域振興課課長補佐

[日程]

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議・報告事項
 - (1) 脱炭素先行地域について【経済・雇用戦略課 スマートエネルギータウン推進室】
 - (2) その他
4. 閉会

[議事概要]

3. 協議・報告事項

(1) 脱炭素先行地域について

【経済・雇用戦略課 スマートエネルギータウン推進室】（以下、スマエネ室）

資料に沿って説明。

水力発電やバイオマス発電などの設備導入を通じて地域課題の解決や災害時の電力供給を目指しています。また、佐治町の豊かな自然環境を活かしてスマート農業の推進も計画しており、来年度から具体的な設備導入に向けた協議を進める予定です。さらに、地域の皆さんとの意見交換を重視し、地域の方々が安心して活動できるような社会インフラの整備にも取り組んでいきます。2030年までに再生可能エネルギー関連の設備を導入する取り組みを推進し、先進的なモデルを築くことで地域の持続可能な発展を目指しています。

【委員】地形地質調査の結果はどうだったかお聞きしたい。

【スマエネ室】古市集落の対岸の3ヶ所でボーリング調査を行い、強固な地盤を確認しました。利害関係の調整などありますので、地域住民さんの意見を聞きながら、こういった形で導入していくのか進めていく必要がありますが、現状少なくとも記載のような設備を導入できるような状況にあります。

【委員】小水力発電で発電をした電力の活用方法というかそういう部分のこともちょっと説明をしてほしい。

【スマエネ室】先行地域のこの事業の中では、2030年度までに皆様が再生可能エネルギーの電力を使っただけをお願いすることが、この環境省の事業の条件となっておりますので、ぜひとも地域で生まれた再生可能エネルギー由来の電力を皆さんに使っただけだと考えております。

一方で電力を使っただけ皆様の立場からすると、地元で発電したといっても、やはり経済的でないと、価格が高くなるなら契約は出来ないとお考えになるでしょう。我々としては、現状のお使いいただいている電力より、経済的な価格で協議を進めていきたいと考えております。

供給にあたりましては、鳥取市も出資しております地元のとっとり市民電力を通じて皆様のそれぞれのご家庭と契約をして、地元の再エネ由来の電力を経済的な価格で提供していくと、こういったことのためにまずは活用させていただきたいと思っております。

また先ほど京都大学、日本総研との連携の件で申し上げましたが、やはり時間帯によっては電力が余るような瞬間があると考えておりますので、そういったものについては、蓄電設備であるとかEVカーの導入等の電動化を進めながら、コミュニティインフラを提供して地域の移動サービスを支える。そういった仕組みにも活用してまいりたいと考えております。

【委員】バイオマスを活用することによって雇用が増えるといった話があったが、どの程度の雇用が生まれると考えられるのか。

【スマエネ室】具体的な事業者名というのは、まだはっきりしてないのでお伝えはできないのですが、全国の他地域でスマート農業の実績のある事業者とやり取りをしており、その中で例えば、菌床しいたけのような事業であれば、10人ぐらいの雇用をしているというような実績を聞いておりますし、チョウザメを飼って、その上で葉物野菜を育てるといったような事業であれば、5名ぐらいの雇用が地域で生まれているということは伺っております。ぜひともこのような形で新たな雇用を生み出していきたいと考えております。

(2) その他

・佐治地域未来プラン

【事務局】地域未来プランの修正箇所をまとめた資料により修正箇所を説明。

【委員】資料のとおりです承。

以上、午後7時20分協議事項終了。